

Monthly Report

Vol.67 / 2011 Nov.

「伊達なSPORT PROJECT」選手がユース五輪出場権を獲得



スケルトン競技での第1回冬季ユースオリンピック出場を目指している「伊達なSPORT PROJECT (<http://www.sport-project.jp/>)」の3選手が、アメリカとカナダで開催されたユースオリンピック予選レース全4戦に出場し、佐藤弾選手と安藤早紀選手がユースオリンピック出場権を獲得しました。野倉大貴選手もヨーロッパで行われている予選会の結果次第で出場の可能性を残しています。

【予選レース結果】

- 第1戦（アメリカ/パークシティ）11月10日（現地時間：9日）
男子 第2位：佐藤 弾 、 第3位：野倉大樹
女子 第4位：安藤早紀
- 第2戦（アメリカ/パークシティ）11月11日（現地時間：10日）
男子 第2位：佐藤 弾 、 第5位：野倉大貴
女子 第4位：安藤早紀
- 第3戦（カナダ/カルガリー） 11月18日（現地時間：17日）
男子 第2位：佐藤 弾 、 第3位：野倉大貴
女子 第4位：安藤早紀
- 第4戦（カナダ/カルガリー） 11月19日（現地時間：18日）
男子 第2位：佐藤 弾 、 第4位：野倉大貴
女子 第4位：安藤早紀

目次

伊達なSPORT PROJECT ユース五輪出場権を獲得	1
保護者向け就活セミナー 就職体験談発表	2
朴沢学園裁縫教育資料展 仙台大学公開講座	3
東北リコー支援事業 みどり台中の上級学校訪問	4
管理栄養士「合格修練会」 「まなびや」学習支援報告会	5
	6
海外研修報告 内丸講師、朴准教授	7
学生の活躍	10

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email: kouhou@scn.ac.jp

保護者のための就活セミナー



写真：入試創職室提供

11月26日(土)にB300教室で「第2回 保護者のための就活セミナー」(主催：入試創職委員会)を開催し、約200名の保護者の来場がありました。このセミナーは保護者に就職活動に対する理解を深

め、目標達成に向けて家族一丸となって厳しい就職環境に立ち向かっていただくために開催しているものです。

はじめに、創職作業チームリーダーの齋藤博教授より、就職活動の現状と特徴、就職先や求人数、内定率の説明がなされ、近年の長引く不況や大震災・原発などの要因により雇用情勢が厳しいこと等が報告されました。次に入試創職室の鈴木職員より「現在の就職活動とその対策」として、就職活動の一連の流れや準備の説明がなされ、「就職活動には自己理解・自己分析が重要であり、そのためには親子の会話が土台となる」ことが話されました。最後に、企業の人材採用に関するコンサルティング等の事業を行っている(株)ディスコの高野裕氏より、「大学生を取り巻く就職環境と就活における親の関わり方」と題して就職活動における親の役割や就職費用の説明がありました。

4年生の就職体験談発表 ～第3回就職ガイダンス～



就職活動をスタートさせた3年生に向けて、内定を勝ち取った4年生が就職活動のコツを伝える「第3回就職ガイダンス 4年生の就職発表」が11月22日(火)にB300教室で開催され、各方面に内定を決めた10名の4年生が発表を行いました。

宮城県警察から内定を勝ち取った佐藤和広さん(運動栄養学科)からは試験対策や計画的な学習習慣を身に付けることの必要性などが話された後、「部活動やアルバイトなどで毎日忙しいとは思いますが、本気になるのは今です。この1年でこの先40年の人生が決まるといっても過言ではありません。頑張ってください。」とエールを述べ

ました。参加した3年生は10名の先輩のアドバイスをメモを取るなどして真剣に聞き入っていました。

発表した4年生と就職先

- ・ 佐藤和広さん(運動栄養学科) 宮城県警察
- ・ 小原翔平さん(情報システム学科) (株)ブレイン
- ・ 庄司文哉さん(健康福祉学科) 梨雲福祉会
- ・ 鈴木麻未さん(体育学科) (株)きらやか銀行
- ・ 高橋理恵さん(健康福祉学科) 宮城県養護教諭
- ・ 興谷裕介さん(運動栄養学科) 仙台市消防
- ・ 笠松 恵さん(体育学科) (株)東祥ホリデイスポーツクラブ
- ・ 森田勇輝さん(運動栄養学科) 郵便局(株)
- ・ 加藤麻未さん(運動栄養学科) アイビス(株)
- ・ 星 隼斗さん(体育学科) 東京都中高保体教諭



「朴沢学園裁縫教育資料展」



11月1日(火) - 6日(日)に東北電力グリーンプラザ仙台(仙台市)を会場にして「朴沢学園裁縫教育資料展」が行われ、6日間で746名の方々に来場いただきました。「朴沢学園裁縫教育資料」は近代日本裁縫教育の展開を初発からたどることのできる重要な歴史資料として、今年7月に557点が仙台市指定有形文化財に指定されています。資料展には朴沢学園の卒業生やご親族の方も来場され、なかには資料寄贈を申し出られた方もいらっしゃいました。また、3日(木)には仙台市の奥山市長も来場され、朴澤理事長、佐藤宏専務理事、伊達宗弘客員教授が案内役を務めました。

写真提供: 法人事務局

仙台大学公開講座「勝つための準備」

～学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座～



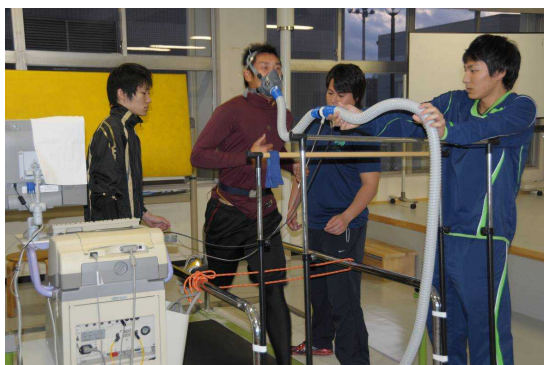
平成23年度の仙台大学公開講座(学都仙台コンソーシアムサテライトキャンパス公開講座)が「勝つための準備」をメインテーマに、10月29日(土)から3週にわたって開催され、延べ113名の受講者に参加いただきました。

10月29日に高橋陽介新助手が担当した「腰痛を予防・克服する」では、腰痛の原因を探り、その予防と緩和のために家庭でも実践できるストレッチやエクササイズが紹介されました。11月5日の白幡恭子新助手が担当した「怪我に勝つ」では、突発的なケガに対する応急処置方法や

数種類のテーピング方法を紹介し、実際に参加者同士で練習してもらいました。11月12日の加賀洋平新助手が担当した「ライバルに『勝つ』体作り」ではより高い競技レベルを目指す運動選手や指導者を対象に、スポーツトレーニングに関する伝統的な迷信を解きつつ、科学的根拠のある体作りについて実践指導しました。この講座は毎回好評を頂いており、昨年よりも多くの方に受講いただきました。

写真提供: 坂根教授(生涯学習センター長)

東北楽天ゴールデンイーグルスの選手がトレーニング実施



11月25日(金)に東北楽天ゴールデンイーグルスの2011年入団選手6名が来学し、高橋弘彦教授、竹村講師の指導のもと最大酸素摂取量、脚筋力および体脂肪の測定が実施されました。選手の体力測定は今年1月にも行われており、今回の測定値との比較によりシーズン中のトレーニング効果を見ることが目的です。測定終了後は、高橋教授から各選手に対して測定値の詳細な説明とオフシーズンの自主トレに対するアドバイスが行われました。なお、測定には柳谷新助手と高橋研究室の学生達も加わり、安全に十分配慮して行われました。

東北リコー(株)支援事業

～ 山元町の仮設住宅で運動指導 ～



写真提供: 地域健康づくり支援センター

本学の「東北リコー(株)社員に対する健康支援協力」事業の一環で、10月30日(日)に岩垂新助手と柳澤新助手、健康づくり運動サポーターの学生が

同社員約35名と共に山元町の仮設住宅(中野熊野堂)を訪問して入居者と交流を図りました。山元町の被災者が柴田町の保養施設「太陽の村」に集団2次避難していたことが縁で、東北リコー(株)社員は郷土料理である芋煮などの炊き出しを行い、本学は仮設で暮らす方への体操指導を担当しました。通常であれば、東北リコー(株)社員に対しての健康指導を行う事業ですが、亘理町や女川町の避難所で多数の活動経験を持つ本学の資源を震災復興に充てようと企画されました。

本学も震災後に山元町での災害ボランティア活動の実施を試みましたが、被害が甚大で、学生を現地に入れることができなかった経緯があります。今回の活動を通して少しでも山元町の被災した方々のお役に立てて幸いです。

名取市立みどり台中学校生徒16名が「上級学校訪問」のため来学



11月8日(火)にみどり台中学校の生徒16名が「上級学校訪問」で訪れ、高橋弘彦教授によるミニ講座の受講および施設見学を行いました。この「上級学校訪問」は生徒が上級学校(高校・大学)を訪問することで、中学校卒業後の進路選択に役立つ情報を得ることなどを目的としており、取り入れる中学校が増えています。高橋教授のミニ講座はC棟3Fの環境生理学実験室



を使用して行われ、予め生徒から寄せられた質問に対して一つひとつ回答する形で行われました。その後に行った施設見学では、同中学校の卒業生である佐藤加奈恵さん(運栄4年)、我妻典明さん(体育3年)、水谷優さん(体育3年)が案内を担当しました。中学校の先輩ということで、生徒たちは気兼ねなく様々な質問を投げかけていました。

仙台大学管理栄養士「合格修練会」 第3回受験者激励会



11月27日(日)に第3回管理栄養士受験者激励会が行われ、今年度の管理栄養士国家試験に合格された本学OBによる講演と、東京アカデミー特別講師の小田嶋晋先生をお招きして模擬試験の活用方法やノート作成のポイントなど計画的に学習していくための勉強方法について講演して頂きました。後輩たちの力になればとの熱い思いから、遠路神奈川県からも駆けつけてくれた合格者OBもいました。

小田嶋講師からは、勉強方法は自分にあった方法を自分で見つけることが重要であり、合格者の勉強方法を参考に自分勉強方法を創ることがポイントであることなどが話されました。藤井運動栄養学科長からの挨拶とともに、管理栄養士資格付与主管である早川講師からの熱い励まし、管理栄養士合格修練会主管である長橋准教授より今年度受験を予定している参加者に激励のメッセージカードが授与されました。



初回受験で合格を果たした岩淵さんの講演

発表を行った本学卒業生

- 3期生 泉川尚彦さん(東洋食品勤務)
- 3期生 平良拓也さん(仙台大学研究生)
- 3期生 竹内晴子さん(仙台大学新助手)
- 3期生 津田佳代子さん(東洋食品勤務)
- 4期生 岩淵安祐実さん(レパスト勤務)

「まなびや」学習支援ボランティア活動報告会



写真提供: 朴澤学長

11月12日(土)に宮城教育大学において震災復興支援ボランティア報告会(主催:宮城教育大学教育復興支援センター)が行われ、本学からも山崎えりなさん(健康福祉学科4年)と星隼斗さん(体育学科4年)の両名が参加し、8月1-3日に16名が参加した女川第二小学校での活動を報告しました。

本学は、被災地の小中学校での学習支援ボラン

ティア活動を行っている宮城教育大学からの依頼を受けて、女川町教育委員会が実施する「夏休業中の学習支援事業」に教員志望学生(主に小学校教員希望者)をボランティアとして派遣。窓口は教職支援コーナーが担い、16名の学生(延べ31名)を8月1-3日の3日間にわたって派遣しました。

学生たちは女川町や山梨県の先生方と一緒に活動し、主に国語と算数の学習指導や採点の補助等を行いました。子供たちとの交流を経て、より一層教師になりたいという想いを強めているようでした。

なお、発表を行った山崎えりなさんと星隼斗さんはそれぞれ今年行われた教員採用試験に合格しております。



岡田成弘助教が若手研究者に贈られる第3回日本野外教育学会奨励賞



大阪体育大学の伊原久美子先生(写真:左)、
駿河台大学の吉松梓先生(写真:右)の3名が受賞

岡田成弘助教が10月21～23日に筑波大学を会場に開催された「日本野外教育学会 第14学会大会in つくば (<http://www.joes.gr.jp/tsukuba2011/>)」において、「第3回日本野外教育学会奨励賞」を受賞しました。この賞は、同学会誌に掲載された原著論文の筆頭者のうち、35歳以下の若手研究者(3名)に贈られるものです。

受賞した岡田助教は「この論文は、私が5年前

に修士論文として取り組んだ研究です。初めは『キャンプ中のどのような体験が、環境に配慮する行動につながるか』という素朴な疑問からスタートした研究でしたが、今では博士論文のテーマにつながっています。今回の受賞は、今の自分の研究テーマの原点を思い出す良い機会になりました。現在取り組んでいる博士論文を完成させ、より実践的でより現場に活かせるような研究に発展させていきたい」と、研究意欲を高めています。

【対象論文】

岡田成弘、岡村泰斗、飯田稔、降旗信一

「少年期の組織キャンプにおけるSignificant Life Experiencesが成人期の環境行動に及ぼす影響 花山キャンプを事例として」, 野外教育研究, 第12巻・第1号

論文はJournal@rchiveホームページ

(http://www.journalarchive.jst.go.jp/english/top_en.php)で閲覧が可能です。

二酸化炭素の発生を1トン削減 ～ ペットボトルキャップ収集活動報告 ～



先日NPO法人エコキャップ推進協会に対して第12回目となるペットボトルキャップを送付しました。今回の送付数は20,400個で、仙台大学からの送付総数は137,600個となりました。2年半前、学生が集うKMCH(クラブハウス)の自動販売機

前に設置した協力ボックスに集まったキャップ1,600個をこの協会に送付したことをきっかけに、学内の各建物に協力ボックスを設置し、以後多くの教職員、学生のみさんから継続してご協力をいただいています。

エコキャップ推進協会はペットボトルキャップ収集を行い、再生可能なペットボトルキャップをゴミとして焼却するのではなく、資源化し得た売却益で「世界の途上国の子どもたちにワクチンを寄贈し救済する」ことを目的に活動を展開しています。本学が送付した137,600個のペットボトルキャップは、ゴミとして焼却されていれば発生していたであろう二酸化炭素を1,084Kg抑制し、途上国の子ども人にポリオワクチンを172人分に接種させることができる量に相当する(エコキャップ推進協会調べ)ようです。今後とも引き続きご協力をお願いします。

海外研修報告

報告者；内丸仁（体育学科・講師）Jin Uchimar, Ph. D. , Visiting Scholar

研修機関；コロラド大学・高地研究センター

研修期間；2011年9月～2013年3月

研修先である、アメリカ・コロラド州にあるコロラド大学は医学部のあるAnschutz Medical Campus、Denver、Colorado SpringsおよびBoulderとキャンパスが複数あります。私が実際に研修する大学研究機関は、Altitude Research Center, Department of Emergency Medicine, University of Colorado School of Medicine, Anschutz Medical Campus（コロラド大学医学部、救急医療部門、高地研究センター（ARC））となり、Anschutz Medical Campusにあります。

ARCは高地あるいは低酸素環境に関する研究を中心に進めている大学研究機関であり、これまでに、関連する分野において多くの研究を行い、実績を有している研究機関です。特に、アメリカ国内においても、高地あるいは低酸素環境に関する研究においてはコロラド州にはロッキー山脈が連なっていること、Pikes Peak（標高4,300m）での高地環境における生理・生化学的応答についての研究が今からおよそ100年前に最初に取り組みされており、研究のフィールドとして、高地トレーニングの場所として、さらには、関連する分野の研究者も多く、恵まれた環境にある大学研究機関です。また、コロラド州は最も健康的な州とも考えられます。といいますのも、先日、アメリカ国内における肥満率が公表されましたが、コロラド州は最も肥満度が低い結果となっており、健康や体力に関しての関心が高い州であるといわれています。

私が研修先としてARCを選択した理由もここにあります。つまりは、低酸素環境下での生理・生化学的効果を背景として、競技者のための高地トレーニングはもちろんのこと、一般の健康体力の維持・増進、疾病の予防など応用範囲は広く、私が行っている研究の可能性を求めてARCを研究先として選びました。

現在は、いくつかの研究プロジェクトが進行あるいは準備されています。一つ簡単に紹介しますと、低酸素環境つまりは高地に行くと、高山病という症状が発生します。この高山病の症状は個人によって差があり、最悪の場合には命を落とすこととなります。ただ、私たちが普段、ハイキング



ARCにある低圧チャンパー

この低圧チャンパー内で高地環境を設定して様々な測定を行っています。

や観光に出かけるような高地ではほとんど問題ありません。この高山病の有無や程度が一般人から競技者の高地での体力や健康状態に大きく影響してくるのですが、では、なぜ人によって高山病は発症したりしなかったりするの？なぜ、人によってその程度が異なるの？高山病を発症すると高地での体力や高地トレーニングの効果にはどのような影響があるの？という疑問が出てきます。残念ながら、この疑問が完全に明らかとなっていないのが現状です。そこで、この点について明らかにするために、高山病の発症と運動能力や血液性状、さらには遺伝子の違いについて実験研究を行っています。

また、現在は来年度の大きな研究プロジェクトに向けた準備を進めております。私は現在、標高5500mに相当する高地環境での測定内容の検討を行っております。実際に低圧チャンパーで標高5500mを設定して、その中で様々な測定方法を検討しているところです。毎日、他のスタッフと試行錯誤しながらの作業ですが、非常に内容が濃く、充実した研修となっています。

私は今回の海外研修を通して、自身の専門分野における知識・技能の向上を、さらには、関連する国際的なネットワーク・ヒューマンリレーションシップの拡充をしたいと考えております。その上で、様々なノウハウや経験を仙台大学の学生に還元していくことが私の重要な使命と感じています。すでに、アイデアはいくつかあります。そのアイデアが本当に理論的根拠に基づいて学生に還元できなければならないこと、実践的な活動に結びつくこと、そして、学生の可能性を広げられるものであることを念頭に、今回の海外研修に取り組んでいきたいと考えております。



低圧チャンパー内での実験の様子

左図は私がこの低圧チャンパー内で高地環境を設定して様々な測定チェックを行っている様子です。鼻につけているチューブは酸素吸入ができるようになっています。当日は標高5500mに設定していたために酸素吸入を行って操作をしていました。右図は高地環境での生理学的測定方法を検討している様子です。多くの専門家がディスカッション状況を確認しながら、チェックしていきます。

海外研修報告

2011.10.30健康福祉学科 朴 賢貞

研修先：University of Leicester , De Montfort University , Kingston University (UK)



全体的な概要

10月は本格的に新学期が始まり、毎日が忙しく講義や演習が次々と入っており毎日が充実しております。先月の28日にレスター大学の受け入れの代表であるLiz Anderson教授と1年間の研修期間に私が目的とする研究内容について2時間ほど話し合い、具体的な支援内容についてもお願いし積極的に支援すると言われました。また、先月に計画されていたすべてのIPE実習のための理論講義及び演習に参加（学部及び大学院修士課程、博士課程）しました。

1. 研修内容

レスター大学では主に医学部の1年生からレジデント課程の学生までが対象（在籍するすべての学生）とし、学年ごとに講義内容や演習内容の難易度が違い、新入生には楽しく、遊ぶ感覚での演習が中心で高学年になると、深く考えさせる内容になります。以下はLiz Anderson教授と話し合った研修期間中の目標です。

多職種連携教育（以下、IPE）の理解を深めるための地域特徴

医学部中心のIPE実践（1995年）から現在（他大学や地域と取り組む）までの経緯

教材の開発（学習DVD作成、ワークブック作成、地域財源の開発方法）

学習効果の評価方法、今までの教育成果など教職員の役割分担、全体的な構想

イギリスにおける社会福祉実習教育及び理論教育の概要理解

レスター大学でのIPE特色は、多職種の中でも共に働く又は利用者のケアの質を高めるために

日々コミュニケーションを交わさなければならぬ職種の群ごとに演習講義が行われております。例えば、医学と薬学、臨床心理学、看護学が一つのグループで言語治療学、聴覚学、社会福祉学のグループ、医学部と薬学、臨床心理学、社会福祉学など学年によってグループ編成が変わります。二つ目に、地域にある資源を十分に演習に使い、演習効果を高めることです。例えば、利用者が演習対象になったり、経験談を学生に語ったりし、より理解度を高めます。講義や演習時間にも参加します。最後に、全ての講義や演習の最後には振替あり、教育効果をその場ではかり、講義後には教員が確認します。（IPEは教員も複数に関わり同じ時間に2-3人程（教員1名、現場をよく理解している実践者（こちらでは個人tutorと呼ばれます。アカデミックコーディネーター）がチームを組んで行なっております。）

*注：個人tutorになるのはGP（General Practitioner：医者）、地域看護師、助産婦、ソーシャルワーカー、OT、PT、薬剤師、子供相談士、シティーセンター行政責任者、IPE実習の現任者や引退された方がなる場合が多いです。

10月には、個人tutorが持って来た利用者の手書きの情報を学生学習教材化するためのワード作業を手伝ったり、講義・演習に準備及び参観したり利用者や関係者との打ち合わせに参加しました。

IPE講義や演習がない日には、社会福祉学の修士課程の講義・演習に参観しました。講義や演習がない日にはDe Montfort UniversityからRoger Smith（社会福祉学科教授）がUniversity of LeicesterからはLatchem Stanley（児童福祉担当）と Hoffman John（児童・家族福祉担当）Couloute Janet（臨床心理学担当）が私の研究室に来てイギリスの社会福祉情勢を話したり、教材を紹介したり、自分の講義に招待し、聴講に行ったりもします。

2. De Montfort University

ド・モンフォール大学は医学部がないためIPE講義や演習はレスター大学から医学部の学生がこちらの大学に来て講義や演習に薬学科、言語治療学、看護学科、社会福祉学科、助産科（Midwifery）などの学生と一緒に講義・演習・実習を行います。

10月のド・モンフォール大学でのIPE実習は、薬剤学科（ド・モンフォール大学）、医学部（レスター大学）の4年生IPCP（Inter professional Care Plan）実習に参加し、学年

次頁に続く

ごとに全部参観し、学生のグループ活動やThe Leicester Royal Infirmary Hospitalでの模擬実習（患者以外は全て学生が模擬医者、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーになりアセスメントを行う演習）を行い、4つの課題が与えられ簡単な概要の説明後実施する。演習の時の患者役は引退された医者、看護師などが役割を演じます。2 - 3名の学生が患者を対象にアセスメントを行う間に他の学生は演習内容を評価します。



もう一つの演習は、実際に脳卒中になって10年目になる利用者が講義に参加し、演習を行いました。その時は、SALT (Speech And Language Therapy)、Audiology、Social workの学生及び3つの学科教授が参加し、聴覚障害や言語障害の演習を行い、振り返り時間には利用者のコメントを参考に理解を深めます。

3 .Kingston University

最後に、ロンドン南部Kingstonにあるキングストン大学はこれから時期をはかり定期的に行く予定です。そちらはIPE実習期間に合わせてレスター大学やド・モンフォール大学のIPE実習期間と重ならない時期を図り参観する予定で今調整中です。

私の訪問の受け入れをしてくれるMark Martin教授の家族がお亡くなり、連絡を待っているところです。

4 . CAIPE活動

CAIPE (Centre For The Advanced of Inter professional Education)の主な役割の一つはイギリス国内及び海外にIPE教育の方法や教材開発、IPEの教育的効果を研究する事です。10月には10月20日にUniversity of Birmingham、Birmingham City University、University of Worcesterの3つの大学のIPE実践の報告されるBirmingham地域に行き、CAIPE FOURMが開かれ、医学部を持っているUniversity of Birminghamと連携しながら実践する大学から開発されたIPE教育教材 (DVD及びWebsiteを使ったE-learningの現状)の発表がありCAIPE理事の意見交換がありました。

また、IPE実践を行った学部生と大学院 (博士課程)のプレゼンテーションが行われ、教育効果を他の大学から来られたCAIPE理事からの意見、改善点などがありとても有意義な時間でした。CAIPE理事からの意見では、学習用に作成されたシミュレーションが医学部中心のものになり他の学科の学生が理解しにくい部分は改善点であるとの指摘もありました。

大学院の学生博士論文のIPE実践に関する論文構成に関しても専門的なコメント等がありとても学際的な支援するCAIPEの活動の一面をみることができました。

全国障害者スポーツ大会へ陸上競技コーチとして本学学生が帯同

10月22日～24日、山口県において全国障害者スポーツ大会が開催され、本学の学生吉住 諒さん（健康福祉学科2年）が役員（コーチ）として選手団とともに派遣されました。

この大会は、「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」を統合した大会として2001年から国体終了後に同じ開催地で行なわれています。大会の目的は、障害のある方々の「社会参加の促進」と障害のある方に対する理解を深めることにあります。大会へのかかわりは体験学習でもあることから、宮城県障害者スポーツ協会から依頼を受け、障害者スポーツに関心の深い本学学生が派遣され、毎年貴重な体験をさせていただいています。

よしずみ りょう
健康福祉学科2年 吉住 諒さん



宮城県選手団役員、陸上コーチとして主に知的障害の方々のサポートを行ないました。障害者スポーツの陸上指導経験はなかったので、役員の方々に教えられながら、自分にできる仕事を率先してみつけ実践することで大会期間の活動に携わりました。選手が所

属する施設職員の方と話す姿を見て個々の選手のモチベーションを保つためにどのような声かけで接しているか、その結果取り組む姿勢にどのような影響となったのかが目に見えて判り生きた学びとなりました。

大会本番による緊張や不安を取り除くこと、障害や個人の特性をいかし、選手の力を引き出すこともおおきな役割をはたします。今大会の経験はすべてが勉強でした。山口の同年代のボランティア学生と共に選手団一同喜びを分かち合った場面もありました。今年は選手たちとの信頼関係の基礎を築いたばかり。声を掛けていただけるなら来年も是非やりたいです。と話してくれました。



トレーナー部がブースを出して協力支援「2011味の素スタジアム6時間耐久リレーマラソン」



左から
みよしせいな
三好聖奈さん(体育1年)
えんどうこうき
遠藤皓樹さん(体育1年)
ひがしたてりょうたろう
東館亮太郎さん(運栄2年)
もと やりょうすけ
外谷涼将さん(体育2年)

11月13日(日)に行われた「2011味の素スタジアム6時間耐久リレーマラソン」(東京都調布市)の会場に本学トレーナー部がブースを出展し、学生4名と鈴木のぞみ臨時職員が活動しました。このイベントは今年初めて企画されたもので、味の素スタジアム内1周2kmのコースを、チームでタスキをつないで6時間で走った距離を計測する「6時間リレーの部」と、フルマラソンの距離を走った時間を計測する「42.195kmリレーの部」の2種目が行われました。スタジアム内には東北復興産直市やスポーツ用品会社などの各種ブースが設置されましたが、その一角に「仙台大学トレーナー部」ブースが設けられ、ストレッチとテーピングの提供を行いました。今回、

出展に至ったのは鈴木臨時職員の知人からの紹介でブースを出すことができたためです。

本学のブースには約50名の来場があり、部員たちは責任感を強く持って1人1人に全力で施術を行ったそうです。活動に参加したトレーナー部の外谷涼将さん(体育2年)は「時間配分の難しさや1回の施術で効果を出さなければならないというプレッシャーがありましたが、たいへん貴重な経験ができました」と話し、東館亮太郎さん(運栄2年)は「先に来た人お客さんから評判を聞いて来てくれる人が多かったことが嬉しかったですし、『だいぶん楽になった』などと感謝されることが嬉しかったです。反省点としては、お客さんから聞かれたことに対して知識不足で回答できないことがありましたし、自分で納得できる施術ができたわけでもありません。今回の活動は卒業後の体験ができ、勉強になりました。より一層、選手の要望に応えられるトレーナーになりたいと強く思いました。」と話しており、学生たちは貴重な体験を経て大きく成長したようです。



西村光生さんが独立行政法人日本学生支援機構の平成23年度優秀学生顕彰

～ ロンドン五輪出場にも期待～



独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）では、学術、文化・芸術、スポーツ、社会貢献の各分野で優れた業績を挙げた学生・生徒に対して、これを奨励・支援し、21世紀を担う前途有望な人材の育成に資することを目的として、多くの方々から寄せられた寄附金を基に「優秀学生顕彰」を

行っています。平成23年度優秀学生顕彰において、本学漕艇部の西村光生さん（体育学科4年）がスポーツ分野・優秀賞を受賞しました。西村さんは平成21年から日本代表として活躍し、平成21

年に開催されたU-23世界選手権大会では、日本ボート史上初めてとなる銀メダルを獲得しています。また、国内でも全日本選手権での優勝の他、数多くの入賞を果たしたことが評価されました。本学では平成21年度に柔道の田中美衣さん（平成21年度卒）が受賞して以来2人目の受賞です。優秀学生顕彰表彰式は12月10日にアルカディア市ヶ谷（東京都）で行われます。

なお、西村さんは日本ボート協会が11月21日～28日に行った日本代表最終選考合宿を経て、2012年ロンドン五輪大会アジア最終予選会（韓国・忠州）の男子軽量級ダブルスカル日本代表に選ばれました。ロンドン五輪の代表権獲得し、ロンドンの地での活躍に大きな期待がかかります。

アメリカンフットボール部が全国大会初勝利

2年ぶり3回目の東北学生リーグ優勝を果たした本学アメリカンフットボール部SILVER FALCONSが、11月26日（土）に開幕した全日本大学選手権大会の初戦で北海道代表の小樽商科大学TOMAHAWKSに31-8で勝利し、全国大会での初勝利を成し遂げました。大会には北海道在住の同窓生が多数駆けつけ、大きな声援で選手を後押ししていただきました。初戦に勝利した本学は既に全国4強に進出しており、2回戦（東日本代表決定戦）は12月4日（日）に会場を東京（味の素スタジアム）に移して関東代表の日本大学PHOENIXと対戦します。この試合は12月18日に甲子園球場（兵庫県）で行われる決勝戦「第66回甲子園ポウル」への出場を決める大事な試合となります。引き続き温かい応援をお願いします。

アメリカンフットボール部主将 加藤良太さん（体育4年）

今年は震災の影響で2ヶ月間の活動休止を余儀なくされたため例年4、5試合行っている春のオープン戦は1試合しか組むことができませんでした。そのためリーグ戦序盤はチームの連携が取れずに、試合の中でつめていく状態でした。最終



戦となった東北大学との全勝同士の対決で、ようやくチームの意図がゲームの中で発揮できるようになりました。特に攻撃の司令塔であるクォーターバックの山田達彦（体育3年）の成長がチームの大きな戦力となりました。

現在の部員数は36名（マネージャー、トレーナー含む）。アメリカンフットボールは試合中に無制限に選手の交代が許されているため、大抵のチームには攻撃専門の11人、守備専門の11人、キックオフやパント専門の11人のレギュラーが用意されており、控え選手を含めると70人～100人いるのが当たり前です。本学では同じメンバーが攻撃と守備のポジションを担わないといけないため、必然的に練習量が増えてしまい、選手の負担が多いのが現状です。しかし、今年の選手はその練習に楽しんで励む者ばかりなので、心強く感じています。

普段からお世話になっている部長の小池先生、生、副部長の平田先生、山田喜信監督、父母会、OB会の方々のためにも目の前の試合を全力で戦うことが恩返しと信じて全国大会を戦ってきます。

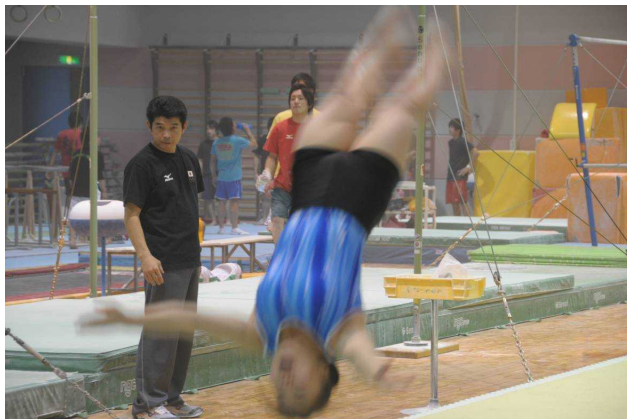
なお、震災では全国の大学から東北地区の大学に対して多くの支援を頂いたそうで、その感謝の気持ちを伝えるために、加藤さんが東北学連の代表として全国大会の表彰式に出席し、優勝校に対して感謝の気持ちを伝えることが決まっています。

OGの田中美衣選手が講道館杯初優勝



11月12、13日に千葉ポートアリーナを会場に平成23年度講道館杯全日本体重別選手権大会が開催され、本学OGの田中美衣選手（了徳寺学園職員）が女子63kg級を制しました。この大会は平成23年度後期の全日本強化選手の選考と、2011年ロンドンオリンピックの日本代表選手第1次選考会と位置づけられています。今大会に出場していませんでしたが同階級には2010年世界選手権大会を優勝した上野順恵選手や、今年4月の全日本選抜柔道体重別選手権大会を優勝した阿部香菜選手（両選手共に三井住友海上火災保険(株)）などレベルが拮抗しています。その中で代表に選考されるためにも、今大会の優勝は大きな意味あるものです。また、今大会には10名の学生が出場し、女子57kg級の宮原尚子さん（体育学科4年 / 秋田商業高出身）と女子52kg級の鈴木真佑さん（体育学科1年 / 京都文教高出身）が5位入賞を果たしました。

体操競技部が日本体操協会の小林隆氏を招いて体操クリニック



体操競技部では11月29日(火)に日本体操協会コーチディレクターの小林隆氏を招いて体操クリニックを行いました。開催の目的は、跳馬に独特の理論を持つ小林氏に指導してもらうことで、跳馬を

きっかけとして学生たちに理論の捕らえ方を学んでほしいとの想いで開催したそうです。指導では、はじめに映像を使って前進運動を最大限ジャンプ力に変換する身体の動き等を説明してイメージを持たせた後に、跳馬での小林理論の基本を何度も繰り返し行い、その都度小林氏から注意点が指摘されていました。部員たちは小林氏のアドバイスに素直に耳を傾け真剣に取り組んでいました。体操競技部が外部の指導者を招いたのは初めてのことで、4時間かけて基礎理論と実践をしました。副部長の小西准教授は「今回の指導を受けて、自分自身の動きを理論的に捉えるための何かきっかけをつかんでもらえれば成功です。」話しています。



Futsal部が第17回全日本フットサル選手権宮城県大会で初の準優勝

～12月10、11日に行われる東北大会へ進出～



本学Futsal部が社会人チームも参加する全日本フットサル選手権宮城県大会において、初の準優勝に輝きました。Futsal部は12月10、11日に福島県で開催される東北大会へ進出し、優勝チームだけに与えられる第17回全日本選手権大会の出場権

獲得を目指します。

Futsal部は5月に行われたインカレ予選では東北大学に敗れて2位に終わりましたが、今大会の準決勝で東北大学にリベンジしました。決勝戦でも接戦となりましたがPK戦の末の惜敗でした。今大会では選手として試合に出場した笹生講師は、「今年のチームは個人のレベルが高いわけではありません。そのぶん練習を多くしてレベルアップを図ってきました。これまでの努力が東北大会出場という結果で実を結び、良かったと思います。東北大会は厳しい戦いになることは間違いありません。部員たちは経験が積める機会なので、選手たちには全力で戦い、試合を通して何か学び取ってもらいたい」と話しています。